

## 小学校家庭教育学級・MCR 学級合同開級式及び家庭教育講演会報告

昨年度を大きく上回る参加者を得て、予定通り会を催すことができました。ご協力・ご参加いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 1 目的

小学校家庭教育学級・MCR 学級合同開級式及び家庭教育講演会を開催することで、家庭教育学級生に家庭教育の重要性について再度認識頂き、1年間の小学校家庭教育学級に対する参加意欲を持っていただくため。



### 2 日程・会場・参加者

開催日 令和4年6月22日(水)  
会場 松戸市民劇場ホール  
参加者 73名



### 3 内容

#### ○小学校家庭教育学級合同開級式

主催者挨拶 松戸市教育委員会教育長 伊藤 純一 氏  
来賓祝辞 松戸市校長会会長 小澤 英明 氏

#### ○家庭教育講演会

演題 「転換期の学校教育 ～ 通知票は必要ですか? ～」  
講師 松戸市教育委員会 伊藤 純一 教育長



### 4 概要

小学校家庭教育学級19校，MCR学級小学校12校・中学校4校からの参加となりました。

家庭教育講演では、「転換期」という文言を用い、外国との数値比較から解説され、現代日本が抱える閉塞感から OECD Education2030 の「生き延びる力」「反省、予測、行動」というプロセスの中で「学習できる力」についてお話いただきました。英国 Barlby 小学校同意書を例に、責任の所在の明確化について解説され、日本においては、学校の対応が未だ『母親目線』にあり、学校、保護者、子どもがそれぞれにおいて責任を持つことの意義を説明され、今後、日本でもそういった方向への転換が重要である旨説明がありました。オランダの『学校では鉛筆・消しゴムを使用しない』『週2000字のレポート』の実態を例に、低学年から論理的思考力・批判的思考力を磨くことの重要性について解説いただきました。コミュニケーション力を育む取り組みとして、10年以上に及ぶ松戸市における『言語活用科』の効能について言及されました。情報の収集・分析能力の開発に関しては、Learning Areas に重き移し、数字にとらわれず、「学びに向かう能力」を育むための「教育はみんなで」推進していくという話をいただきました。

学級生の感想として(一部)

○小沢校長会長の祝辞の中でのお話。18歳成人を意識して、これから子どもに接していきたいと思いました。とても心の残った祝辞でした。○学校経営の説明で、毎回「主体性」や「非認知能力」を育てていくことを目標としていると学校の考えを聞くのですが、教育長のより詳しいお話で学校が目指している方向がより明確に理解することができました。○松戸市の教育は、他市に比べても転換しようとする力を持っていると思います。

アンケートは、受講者の95%の提出を頂きました。開級式・講演会については、良かった(93%)普通(7%)良くなかった(0%)、講演会において新しい知識や視点を得られたか、得られた(97%)得られなかった(2%)無回答(2%)という結果でした。結果から参加者の期待に応えられる内容であったと考えます。